

17の目標からなるSDGs  
どのぐらい知っていますか？

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 市民の「認知度」と「取り組み状況」



令和4年度「市民による市政評価」で、SDGsの認知度と取り組み状況を聞いてみました。

「認知度」や「実際に取り組んでいる方」、「取り組む意欲のある方」の割合は、いずれも40代が最も高く、50代以上では年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられます（下グラフ内の矢印で表示）。

また、「取り組み状況」では、60代以上で「取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」の割合が高くなっており、80代では半数を占めています。

今を生きる私たちだけでなく、子どもや孫などの将来世代もこの地球で、このまちで豊かに幸せに暮らし続けていくためには、年代などの属性に関わらず、全ての人々が協力してSDGsに取り組んでいくことが重要です。

17の目標の関係性について  
理解を深めよう！

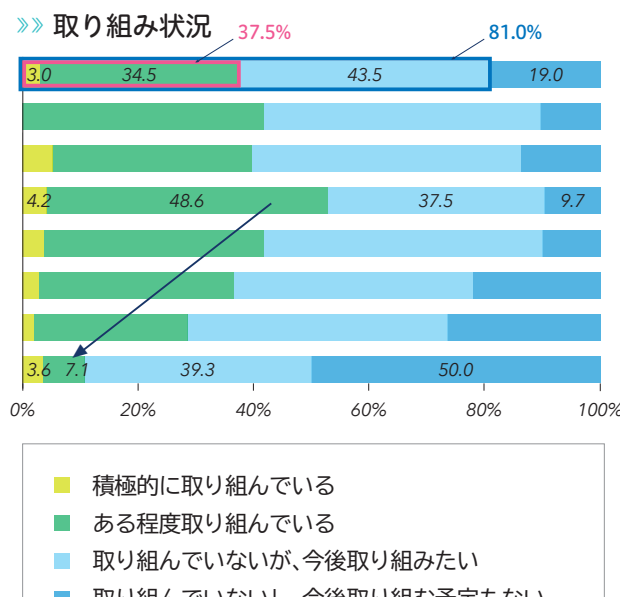
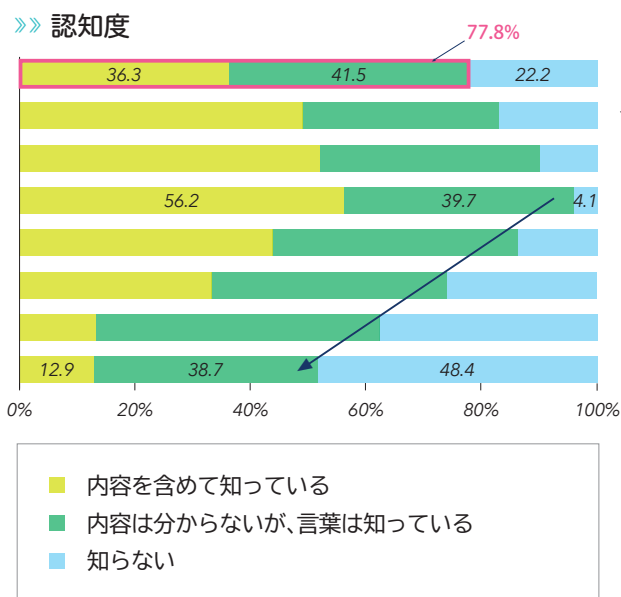


## SDGsウェディングケーキモデル



「SDGsウェディングケーキモデル」は、SDGsの17の目標の関係を分かりやすく図に表したものです。17の目標は三つの段階に分けられ、「経済」や「社会」は、全ての土台となっている「環境」によって支えられていることが分かります。この3層はそれぞれが密接に関わっており、目標を達成するためには、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」が中心を貫いているように、全ての人がお互いを理解し、協力して取り組んでいくことが重要です。

SDGsは環境に関する目標と思われがちですが、経済・社会・環境の3側面の調和を図りながら、それぞれの分野を持続的に発展させていくことが重要です。



SDGsの認知度 ▶ 77.8%

内容を含めて知っている + 内容は分からないが、言葉は知っている

内容を含めて知っている方 ▶ 36.3%

認知度(77.8%)の半数以下

実際に取り組んでいる方 ▶ 37.5%

積極的に取り組んでいる + ある程度取り組んでいる

取り組む意欲のある方 ▶ 81.0%

実際に取り組んでいる + 取り組んでいないが、今後取り組みたい

秋田県SDGsパートナーを表すロゴマークを表示することができます



秋田県SDGsパートナー募集中！



秋田県HP

## 秋田県SDGsパートナー登録制度



秋田県では、事業活動などを通じてSDGsの達成に向けた取り組みを実施している企業や団体を「見える化」し、官民一体となってSDGsを原動力とした持続可能な地域社会を実現するため、「秋田県SDGsパートナー登録制度」を創設しています。

市内では、「大仙市」を含む85の企業などが登録されており、秋田県全体では882の企業などが登録されています(5月1日現在)。

未登録の企業などの皆さんは、ぜひ登録いただき、みんなで協力し合いながら、SDGsの達成に向け取り組んでいきましょう。みんなで手を取り合い、豊かな秋田を未来へ！

「今」の生活を守り、より良い「未来」をつくっていくため、「誰かが」ではなく「私たち自身」が今日から行動していこう

# もっと知ろう！ SDGs



市では、各種計画へのSDGs要素の反映や「秋田県SDGsパートナー登録制度」への参画、普及啓発などSDGsの取り組みを積極的に進めてきました。令和4年5月には「SDGs未来都市」に選定。これまでの取り組みを強化しつつ、経済・社会・環境の3側面で相乗効果を発揮しながら、持続可能なまちづくりを進めています。

広報やホームページでは、SDGsへの理解を深めていただくため、17の目標を毎月一つずつ取り上げ、課題や現状、日常生活で取り組める行動などを交えながら紹介してきました。今回はまとめとして、各目標の関係性や市民の皆さんのSDGs認知度などを紹介します。

広報だいせん日和で紹介した17の目標をはじめ、SDGsに関する情報は市ホームページにも掲載しています。ぜひご覧ください。



問い合わせ | 総合政策課 ☎ 0187-63-1111 内線278

「これならできる」を  
一つでも多く実践してみよう！

## 日常生活でできる取り組み



- SDGsの達成には、私たち一人一人が当事者意識を持ち、「自分のこと」として考え、日々の生活の中で意識して行動していくことが重要です。全ての目標が私たちの生活に関係しており、たとえ小さな一歩でも、社会を、そして未来を変える大きな一歩につながります。
- あらためて、日常生活でできる身近な取り組みの一例を紹介します。「今」と「未来」のために、今日からあなたもできることから取り組んでみましょう。
- 日常生活でできる身近な取り組み
  - マイバッグやマイボトルを使う
  - 公共交通機関や自転車、徒歩で出かける
  - 節水・節電を心掛ける
  - 支援団体へ募金や寄付をする
  - 地域活動やまちづくり活動に参加する
  - 食品ロスを減らす
  - 家事や子育ては、みんなで分担する
  - 認証マークなどの付いた製品を選ぶ
  - 地産地消を心掛ける
  - いじめや差別をしない・させない
  - SDGsに関心を持ち、問題となっていることを調べる